

35面(近畿経済・兵庫)掲載

篠田プラズマ 紫外線光源を開発

フィルム型、医療向け

映像表示装置メーカーの篠田プラズマ(神戸市、篠田伝社長)は、神戸大学などと組み、フィルム型の紫外線光源を開発した。医療や産業分野で今後実用化を目指す。同社はフィルム型のプラズマディスプレイを関西国際空港の旅客ターミナルビルなどに設置した実績がある。映像表示装置以外の開発は初めて。

光源は神戸大のほか、兵庫県立工業技術センターや、紫外線ランプメーカーのユメックス(姫路市)と開発した。大きさは30センチ四方で、曲げることも可能。希土類元素のガドリニウムを使い、紫外線を出せるようにした。

医療用や産業分野で殺菌用に使われる紫外線光源としては現在、水銀を使ったランプが多い。環境に配慮し、水銀を使わない発光ダイオード(LED)による紫外線光源の開発も始まっているが、広い面積を光らせるには不向きだ。